

原 著

家庭内喫煙者の有無と幼児う蝕の関連性について

中山 佳美^{1,2)} 森 満²⁾

概要：北海道の中でも、成人の喫煙率の高い十勝地域の幼児を対象に、家庭内喫煙者の有無とう蝕有病との関連性について検討した。調査に協力した十勝地域 16 町村の平成 18 年度の 1 歳 6 か月児歯科健康診査の全受診者 1,317 人、3 歳児歯科健康診査の全受診者 1,391 人のデータを収集した。1 歳 6 か月児のう蝕有病者率は 5.2%、3 歳児は 29.8% であった。喫煙者のいる家庭は、1 歳 6 か月では 722 件 (54.8%)、3 歳児では 824 件 (59.2%) であった。う蝕経験の有無を目的変数として、ロジスティック回帰分析での単変量解析を行った。この結果、う蝕と関連のあった要因は、1 歳 6 か月児では、寝る前や夜間の授乳、おやつ時間の規則性、保護者の仕上げ磨き習慣、家庭内での喫煙者などの 8 要因で、3 歳児では、保護者の仕上げ磨き習慣、家庭内での喫煙者などの 12 要因であった。これらの単変量解析で有意であった変数を用いて、stepwise 法による多変量解析を行った結果、1 歳 6 か月児は、寝る前や夜間の授乳がある児は、ない児に比べて、う蝕のある児が多かった (OR=3.2, 95% CI: 1.8-5.6)。3 歳児では、家庭内での喫煙者がいる家庭の児は、喫煙者がいない家庭の児に比べて、う蝕がある児が多かった (OR=1.5, 95% CI: 1.04-2.0)。家庭内喫煙者を減らすことは、子どもの歯の健康を推進するためにも重要であると考えられた。

索引用語：家庭内喫煙者、環境たばこ煙、幼児う蝕、dmf